夏越の大祓のご案内

～茅の輪くぐりの神事～

六月の晦日、恒例の夏越の大祓（おおはらえ）並びに茅の輪くぐりの神事を斎行します。

斎行日
六月二十三日（日）　午後三時
三十日（日）　午後六時
七月　七日（日）　午後四時

予約不要。どなたでもご自由に参加できます

玉串料　三〇〇〇円（一世帯）
授与品　茅の輪飾り　撤下饌

古来我々の先祖は、毎年六月晦日と年末の「大祓」によって心身を清浄にし、新しい半年の幸せを祈願しました。一層の「幸せ」のご縁をお授かりになりますようご案内申し上げます。

夏越の大祓とは

大祓神事の歴史は古く、大祓詞（中臣祓）は平安時代の法律書「延喜式」（九二七年）に記載され、古代豪族の中臣氏が司る宮中行事でもありました。

人が生きる上で知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを取り除き、災厄を避け心身を清らかにすることを目的とした神事です。毎年六月の晦日、十二月の晦日の年二回行い、半年ごとの罪穢れをお祓いします。わけても、江戸時代以降はこの六月の夏越の大祓には茅の輪くぐりの神事が斎行され広く江戸の庶民に広まったとされ、日本中の神社で斎行される伝統行事となりました。当分祠でも毎年欠かさず斎行する恒例行事であり、大きな茅の輪くぐりを手作りで製作しております。

初夏に奉仕会の有志が秦野盆地の山に赴き茅を切り出し、それをシュロ紐で結びつけ人がくぐれるほどの大きな茅の輪を作成します。これが大変難しく茅の具合や締め付ける強さなど細心の注意をはらう必要があり、均一な太さに編み込むには熟練の手技が必要とされます。

なんで茅の輪をくぐるの？

その答えは出雲神話（備後国風土記）に伝えられております。ヤマタノオロチを倒した素盞嗚尊（スサノオノミコト）が、旅をしている途中、蘇民将来（ソミンショウライ）、巨旦将来（コタンンショウライ）という兄弟のところで宿を求めたところ、弟の巨旦将来は裕福であったにも関わらず宿泊を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は貧しいながらも喜んで厚く饗しました。その数年後、再び蘇民将来のもとを訪ねた素盞嗚尊は「もし悪い病気が流行ることがあった時には、茅で輪を作り腰につければ病気にかからない」と教えられました。

そして疫病が流行したときに巨旦将来の家族は病に倒れましたが、蘇民将来とその家族は茅の輪で助かったというのです。

この言い伝えから「蘇民将来」と書いた紙を門に貼るという信仰が生まれました。茅の輪も当初は伝説のとおり小さなものを腰に付けるというものでしたが、江戸時代初期になり、大きな茅の輪をくぐって罪や災いと取り除くという神事になったと言われております。

身近な場所や玄関先や神棚にお飾り下さい。

人形・車形の使い方

古くより禊や祓をする時に人間の身代わりとして人形を用いてきました。当分祠では夏冬の大祓の際に、人形（ひとがた）・車形（くるまがた）を形代（かたしろ）にして自らの罪穢れを移しお祓いします。人形の紙に氏名を記入し、息を三回吹きかけ、頭から全身気になる場所を撫でこすり、悪い気を取り移してお祓いします。

車形に氏名・ナンバーを記入し同様に乗用車、バイク、自転車などの四方を撫でこすって罪穢れをお祓いし、当分祠にお納め下さい。

大祓神事の際、身代わりとしてお清めし、後ほど忌火をもってお焚き上げします。

（人形・車形は授与所にもご用意しております）

【当日不参加の方】
ご参列できない方は事前にお預かりの上授与品をお渡しします。人形・車形・玉串料を封筒に入れてご持参ください。

【郵送される場合】
ご参列叶わない方は郵便振込にて御祈願料を添えてご送金下さい。後日記念の縁起物を発送します。

能登半島震災義援金報告

令和六年一月一日に発生した能登地方を震源とする地震で被災された方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

一月六日より当分祠境内にて能登半島地震義援金箱を設置致しまして、被災地支援の為募金活動を開始しました。皆様のおかげをもちまして、累計金額が133万4927円となり、五月八日付で被災地域である能登国一之宮・氣多大社へ送金したことをご報告いたします。

皆様より多くのご支援をいただきました事を篤く御礼申し上げます。

◆能登国一之宮 氣多大社
能登半島の付け根、羽咋市に鎮座する。御祭神の大己貴命は出雲から舟で能登に入り、国土を開拓したのち守護神としてこの地に鎮まったとされる。古くから北陸の大社として知られる。現在は本殿など五棟の社殿が国の重要文化財に指定されているほか、国の天然記念物でもある社叢「入らずの森」が有名。今回の震災により、耐震構造になっていない国指定重要文化財の御本殿、能登守護畠山氏造営の若宮神社、白山神社の三棟が少なからず損傷を受け耐震補強を計画とのこと。

七五三詣のご案内

七五三とは三歳の男女の「髪置き」、五歳男子の「袴着（はかまぎ）」、七歳女子の「帯解き」のお祝いを指し、三歳・五歳・七歳の三つの祝い事をまとめて「七五三」と呼びます。

七五三のお祝いとは、子どもたちに元気に育ってほしいとお祈りし三歳、五歳、七歳と成長する様をお祝いする儀式です。

◆御祈願料
一万円・七千円・五千円
お子様の授与品として福袋（おもちゃ入り）・御守・千歳飴を授与。

◆祈祷受付時間
八時四十分～十六時三十分（事前の予約は不要）（混雑時を除き人数制限なし・おじいちゃんおばあちゃんも昇殿可）

◆耳寄り情報
十月より境内に期間限定で《七五三限定記念写真スポット》《祝い太鼓》を設営します。（無料）

※土日祝日は九時・九時半・十時～十六時半と三十分毎を目安に御祈願を斎行します。ご家族様お揃いの上受付をお済ませ下さい。
※平日は随時お申込みの順にて斎行します。十～三十分程度の待ち時間になります。
※混雑時は上記の限りではありません。また時間ごとに最大二十四組ご一緒に御祈祷を斎行します。
※お付添いのご家族・おじいちゃん・おばあちゃんもご一緒に昇殿する事が出来ますが、七五三詣はお子様が主役ですので土日大安の混雑時には保護者様以外はお席の確保ができない場合もあります。混雑情報は公式サイトで予め情報がでますのでご参考にして下さい。
・七五三（帯直し）は暦の上では通常十一月十五日といわれますが、九月下旬から十二月中旬までの期間で来られる方が多いです。
御都合のよい時期にお越し下さい。それ以外の時期はお問合せ下さい。

※出雲記念館にて着付け・記念写真など絶賛受付中